

本文目次

I. はじめに	
1. はじめに	1
2. 牛頸窯跡群総括報告書作成の方針	2
3. 報告書の内容	2
4. 教育委員会の体制	3
II. 牛頸窯跡群調査研究史	
1. はじめに	5
2. 牛頸窯跡群調査史	5
(1) 牛頸窯跡群調査前史	
(2) 牛頸窯跡群における本格的調査の開始	
(3) 牛頸窯跡群における調査の進展	
3. 牛頸窯跡群研究史	9
(1) 牛頸窯跡群における須恵器編年研究	
(2) 牛頸窯跡群における支群の設定	
(3) 須恵器工人組織に関する問題	
4. 今後の課題—まとめにかえて—	13
III. 位置と環境	
1. 地理的環境	17
(1) 牛頸窯跡群周辺の地形	
(2) 牛頸山とその周辺の地質	
(3) 牛頸山の植生	
2. 歴史的環境	19
(1) 旧石器～縄文時代	
(2) 弥生時代	
(3) 古墳時代	
(4) 大宰府成立前後	
IV. 窯跡の分布	
1. 分布調査	29
(1) 平成17年以前の分布調査の経緯・方法	
(2) 平成18年・19年の分布調査	
(3) 牛頸窯跡群の範囲	
2. 窯跡の分布	31
(1) 時期ごとの分布	

V. 出土遺物の検討	
1. 須恵器の編年	41
(1) 今までの研究と本書での考え方	
(i) 開窯期 (6世紀前半～中頃) から7世紀中頃まで	
a. 『野添・大浦窯跡群』の編年案	
b. 本書での考え方	
(ii) 7世紀後半から閉窯期 (9世紀前半頃) まで	
a. 今までの編年案	
b. 本書での考え方	
(2) 編年案	
(3) 実年代観	
2. 器種構成	83
(1) はじめに	
(2) 対象と方法	
(3) 器種構成による窯跡・灰原の分類	
(4) まとめ	
(5) その他の器種	
3. 瓦	99
4. その他の遺物	120
VI. 窯体の検討	
1. 時期ごとの変遷	129
2. 多孔式煙道	137
3. 溝	140
4. 燃焼部	144
5. 窯体・窯体周辺の土坑・ピット	146
6. 付帯施設	152
VII. 自然科学的分析の成果	
1. はじめに	159
2. 考古地磁気年代測定	159
3. 樹種同定	162
4. 胎土分析	165
5. 窯焼成温度推定	168
6. 赤色顔料の同定	169
7. 鉄刀象嵌の分析	170
8. まとめ	171

VIII. 考察	
1. ヘラ記号から見た須恵器の流通範囲	177
2. ヘラ書須恵器	203
3. 甕	211
4. 瓦生産	231
5. 窯体規模と基数の変化－生産量の推定に向けて－	235
(1) はじめに	
(2) 窯体規模の通時的変化	
(3) 窯の操業時期による規模と基数の通時的変化	
(4) まとめ	
6. 集落と古墳	245
(1) はじめに	
(2) 集落	
(3) 古墳・墳墓	
(4) 集落と古墳の関係	
7. 支群設定	259
(1) はじめに	
(2) 特徴的なグループの抽出	
(i) 時期と規模の異なる窯跡が2基並列する窯跡群	
(ii) 同時期で規模の異なる窯跡からなる窯跡群	
(iii) 排煙孔の形状に違いがある窯跡	
(iv) ヘラ書須恵器出土窯跡群	
(v) 瓦陶兼業窯	
(3) 検討	
IX. 総括－牛頸窯跡群が占める位置－	
1. はじめに	263
2. 牛頸窯跡群における須恵器生産	263
3. 九州の須恵器生産	264
(1) 8世紀中頃までの須恵器生産	
(2) 8世紀中頃以降の須恵器生産	
4. まとめ	275
X. 窯跡保存への経過と今後の取り組みについて	
1. 経過	281
2. 今後の取り組みについて	282
付. 大谷窯跡群について	284
牛頸窯跡群詳細分布図	285
牛頸窯跡群調査関係文献	313